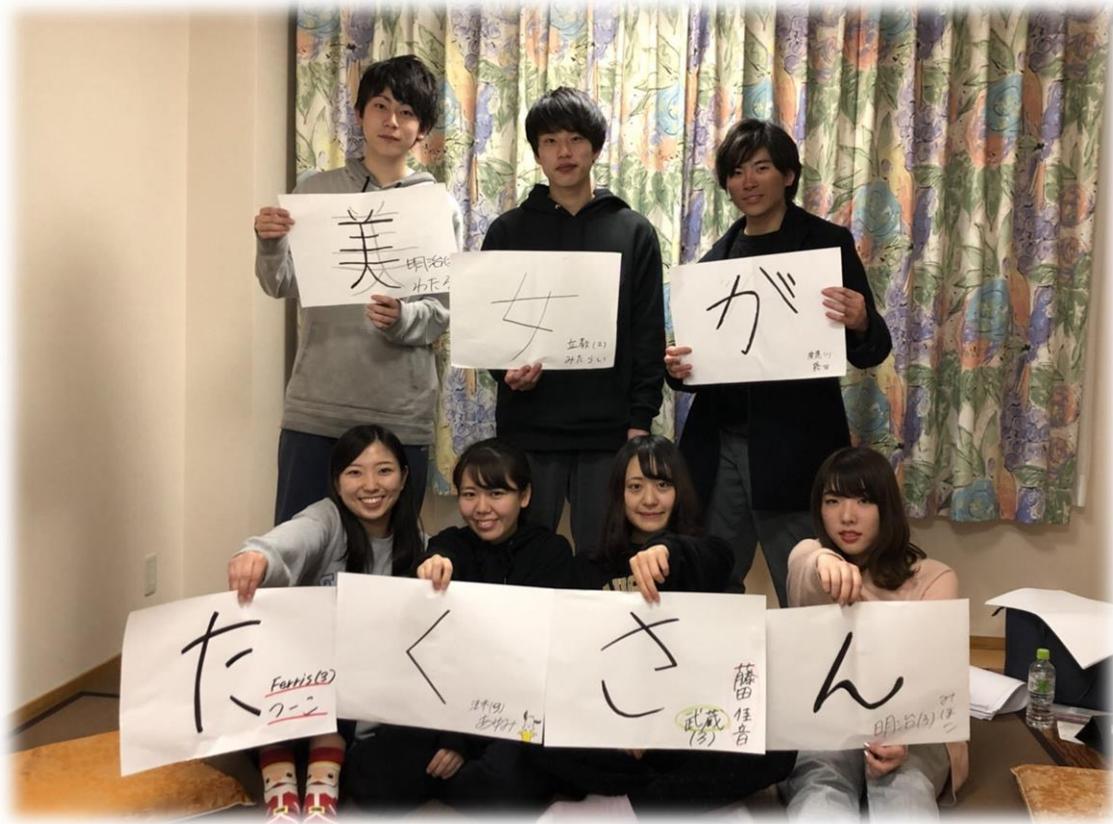


## 5<sup>th</sup> D- table @203 総評



### *Table member*

鈴木 (明治大学 3年)

御手洗 (立教大学 2年)

藤田 (慶應義塾大学 2年)

長田 (明治大学 2年)

津田 (フェリス女学院大学 3年)

藤田 (武蔵大学 3年)

## 議論の流れ (文責：梶)

### ・ OP vote

開始と同時に鈴木、野沢、津田、藤田（武蔵）の4名がOPに立候補。Narrowを提示した津田の進行によりOP voteが行われた。Comparison ideaに差異が見られたものの、全員生徒のM/SをHarmに据え、教職員による体罰を主題としたOP sheetを提示した。OP voteでは主に各Comparison ideaに対する理解浸透とDoubt提示が行われ、約30分が経過したのち3つのComparison ideaにより多くのDATGに対応する姿勢を見せた津田がOPとして選出された。

### ☆OP voteにおける立ち回り

→感想として2つ。

- ①. 毎年多くいわれることですが、ComparisonのDoubt提示を不用意に行うことは時間の浪費となりがちです。今回のテーブルでも藤田くん（慶應）を中心として多くのDoubtが提示されましたが、結論に結びついたものはほぼありませんでした。反論として質が高いと思われるものも複数あったために、非常に残念です。
- ②. 春セミ期間多く求められたリフレのうちの一つとして、どうすればOPになれるか？というものがあります。答えれば、基本運ゲーです。個人的にはOPになれるかどうかにかかわらずRankをかけるのではなく、仮に選ばれなかったとしてもその後の議論での役割を確立できるようなアピールの仕方も検討してほしいと思います。

EX)NFCカットのOPSを提示→流し等、迅速な議事進行において存在感を発揮 etc.

### ・ Problem

主に津田のComparison ideaのうちの一つ、「大人のストレス耐性は子供のものよりも強いため、QLにおいてAD>DA（仮想DA: teacher）」に関し、Problemの定義をすり合わせようとする試みが見られた。長田による「ストレス解消のために暴力をふるう人間のストレス耐性は、果たして高いと言えるのか。」というDoubtをもとに、様々なIdeaやQが乱立したが、津田が今回のteacherはストレスの発散ではなく、教育等明確な目的を持ち体罰をふるうものに限られるという再定義を行って議論は収束した。

### ☆OPのDefinition

→感想として1つ

みんなの意見を取り入れるOPでありたい。こういった意見も春セミ期多く見られます。もちろん否定は全くしないし、僕が現役の時も、そういった素直な心をもって議論を行うことを理想としていました。ただし、それはたやすく定義を変えること、相手のDoubtに耳を傾け続けることと同じではないと思います。定義が変わるということは、OPSを入念に準備しなかった自分の怠慢が露呈するという事。一人のDoubtに時間を割くことは、自分のGet ADを願いVoteしてくれたほかのtable memberの信頼を損ねる行為でもあります。間違いを素直に認めることは大切ですが、それ自体が評価されるべきものなのかどうかは、すべてのOPに考えてほしいと思います。

・ Harm

またも数多くの Q や Doubt が乱立するかに見えたが、御手洗の「Harm において必要な定義を確認し、それ以外の Idea はのちに検討すべき」という介入により、比較的スムーズに検証終了。

・ SOH Cause ASQ NFC に対しては目立った介入なし。

・ Plan

2<sup>nd</sup> Linkage において、長田が反論を提示、内容としては「体罰の禁止により、抑止力が低下して、生徒によるいじめが増加し、それによって体罰と同質の M/S が生じる。」というものであった。いち早く藤田（慶應）により、「体罰には抑止力と同様に、※Brutal effect と呼ばれる暴力増進効果があり、それらの効果に関して比較検討できない以上、可能性としての Get AD は否定できない」という Idea が示されたが、三角 Logic を伴っていなかったために、抑止力とは何か、Brutal effect とは何かといった言葉の定義を確認する Q が乱立し、混乱を招いた。検証から 40 分ほどが経過したのち、御手洗により、「Solution の Burden を確定するするため、同質の M/S というための基準を明確にする必要があるのではないか。」という Idea が提示されるが、chart が拙かったために、浸透しきらなかった。結果的にその介入をもとに、鈴木、藤田（武蔵）らが、「長田の主張する S/M と OP の提示する AD としての M/S には多様な差異があり、それを長田が網羅して同質であると証明できないため、DA として提示するほかない。」という Idea を提示し、長田がそれに同意する形で、この議論は収束を見た。

※中世から近代にかけて、刑罰の残虐性の低下とともに犯罪が減少していることから、刑罰の厳しさとその犯罪抑止力は、必ずしも比例しないとする論。（バートランド・ラッセル）

注）Brutal Effect という単語自体は発見できず。誤りの場合があるので、正しい資料をお持ちの方はご連絡いただければ修正します。

☆Argument に関して

→感想として 1 つ

今回意見を提示した長田君は、Harm において AD TG の M/S が先生の権威からくるものであるということを確認したうえで、いじめという現象の背景にも school curst とというある種の権威があるため同質の M/S であるという論を持っていました。これは非常に面白い観点であるし、ぜひ今後も Idea として深めていってほしいです。

ただし個人的には、Solution という観点からすると、事実上 Comparison の余地が生まれた時点で AD と同質ではないと考えています。具体的には、2 つの M/S に関し TG、QL、QT それぞれがすべて同じであるという認識が table で共有されないならば同質であるとは言い難く、それが不可能である場合、Narrow に基づき Answer the title のため Comparison をする必要性が生まれてしまうということです。こうした Narrow に基づいた解釈を提示することが、いわゆるセオリーをマクロにとらえるというやつなのかなとか思ってます。（違うかも）

## ・Plan その2

長田の Idea が収束したのち、野沢により「体罰には良い面悪い面があり、その2つを比較検討しなければ、日本国民にとって今回の AD を Merit とすることはできない。」という Idea が提示され、それに対し藤田（慶應）が「根本的な Solution の議論から乖離しているのではないか。」という Idea を提示し、御手洗がそれをもとに OP である津田と野沢の Solution の認識を統一しようとしたところで、津田が「Table member の Vote により Workability の Task を定義しなす。」という Procedure を示したが、その結果を待たず3時間経過のため議論が終了した。

個人総評（青山学院：塚越康介）

### 1位鈴木（明治大学3年）

最終的に長田の argument を流し議論を前に進めたという点で1位とした。介入量が圧倒だったわけではないが一つ一つの質は比較的高くそれ以前はもたついていたトリートを終わらせていた。最後の一打を自分で打つという面は一つ頭が抜けていたので次はより効率よくその終着点の付けるようになるためのプレパをし伸びてほしい。結果としてはランクを取る順位になったもの下とはとても僅差だったので満足せずアッセンに向けて今以上に頑張ってくれることを期待している。

### 2位野沢（法政大学3年）

トリートがなかなか進まない中唯一新しい切り口で議論を進めようとする姿勢を評価し2位とした。野沢の方法論が使われ議論が進んでいたら1位になっていた可能性が高く見ている側からしてもすごく惜しい立ち位置にいたので最後の最後に自分に持っていく意地と技量が1位と比べ足りていなかったと感じた。次のランクのつく大会まであと2カ月半だがその中で自分を伸ばせるかによってより上位に行ける可能性があると思うので頑張してほしい。

### 3位御手洗（立教大学2年）

コンスタントな介入や質の高い発言をしていたという点で3位とした。正直1番質は高かったのではないかというレベルで ASQ から argument 中までしていた。単刀直入な発言で芯をつく Q などはこのような3年生同士の殺し合いテーブルの中でするのは評価できるポイントだと感じている。しかし学年の壁というのもあって決定打まで持っていきかけていたわけではないので歯がゆいところではある。来年は代を引っ張る側の人になっていくので今後も頑張してほしい。

### 4位藤田（慶應義塾大学2年）

怒涛の介入量を評価し4位とした。だが悔しいことに質はあるものの独り言で終わってしまっていた。今後はそのエクスプラの能力を結論と結びつけるようなプレパをしアッセンでかましてほしいと思う。

### 5位長田（明治大学2年）

アークューメントを出したので5位とした。長田も他2年2人同じで発言量は多かったが自分から他のごちゃりを解消するものではなく自分のアイデアを説明するのに留まっていたため下の順位となった。しかし2年でここまで来たという事に自信を持ち代を引っ張って行ってほしい。

### 6位津田（フェリス女学院大学3年）

オピニオンプレゼンターになったため6位とした。せっかくテーブル内でオーソリがあったのに発言を

そこまでせずトリートにもそこまで交わらないのはもったいないので次こそはその面でも頑張ってもらいたい。

7位藤田（武蔵大学3年）

鈴木（明治大学3年）のトリートのベースが藤田（武蔵大学3年）だったが最後まで持って行けず非常にもったいないと感じた。センスはあるのでランクをあきらめず次に向けプレパをしてほしい。

全体の感想

立教4年 梶

今回は2カンD-3人が一堂に会したということで、新進気鋭の2年生 VS 意地の3年生という構図が非常に面白かったなーと。

2年生は、皆僕が2年の時より上手だから、自信もって！ただチャートとロジックは死んでも忘れんな！わかりにくい！！3年生は、意地のとか書いちゃったけど、ほんとによく頑張った！介入を終始絶やさずスタンスはすごい好き。試ジャッジ期間中は、勝ちにこだわる姿勢が見られない子も多くて、残念だなーと感じてたけど、5th でここまで熱く戦ってくれたら、ジャッジ冥利に尽きます！

PDD ってやっぱ気持ちが一番大切な競技だなんて思うよ、僕は。それがなくて勝てるもんも勝てないので、ぜひぜひ、アッセンでもその気持ちを忘れないで、甲テーブル、そしてファイナルの切符を取りに行ってもらいたいなーって思いました！以上！お疲れ！！

P.S) 議論の内容に関してジャッジの認識と祖語があり確認したい場合、もしくは総評の訂正を求めたい場合は連絡ください。対応します。

青学4年 Kosuke T.

どもども青学のこーすけです。総評とかかたっ苦しい文は苦手だねやっぱ（笑）読みづらいかもだけどそこは許してほしい！こんな余談は置いておいてまずはお疲れ様ですと。梶も言ってたとおり2年対3年という今後のデイスを引っ張ってくれる子たちの意地的なものが見れて非常に面白かったです。でもやっぱり代のカラーといいますか被せあいやらデイスっていう土俵外で戦っているように自分には見えてしまう節があるんだよね。春セミのときの総評でも言ったんだけどやっぱり way to talk とかっていう話は何の代でもよくあるんだけどやっぱりその way っていうのが合ってるか間違ってるかで戦ってほしいって気持ちがあるのよね。まあそこは俺がこんなこと言ってもそう簡単には変わるものではないのかなとは思いますが最終的には議論をしてくれってわけ！ここまでの主眼は3年に対してなんだけど2年に対しては2年前の俺らなんかと比べたら全然うまいんじゃないか？って思いました！さすが名の知れた子たちだなあって。君らに対しては各々自分がこういう人になりたいとかこういうことがしたいってあると思う。もちろんデイスにそれを落とし込むのが前提ではあるけど少しでもやりたいと思ったことがあったら試して欲しい。やっぱりそういう自由な考えができるのはデイス頭に染まりきってない今が一番できるしその柔軟性を維持しながらデイスのセオリーとかも勉強してなんかいろんなやつがいろんなことをやってる面白い代にして欲しいってほしい！その両立が難しいんだけどね（笑）期待しかないよーふぁいと！